

認知症とは

脳は、人間の活動をコントロールしている司令塔です。認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったために、生活するうえで支障が、およそ6ヶ月以上継続している状態を指します。

認知症には必ず原因となる病気が存在します。認知症を引き起こす病気は、約70種類あるといわれ、おもな病気としてアルツハイマー病、レビー小体型認知症、脳血管性認知症があります。

もの忘れの違い

加齢によるもの忘れ

- ・ 体験の一部を忘れる
- ・ ヒントを与えられると
思い出す
- ・ 時間や場所はわかる
- ・ 日常生活に支障は
ない
- ・ もの忘れの自覚がある

認知症によるもの忘れ

- ・ 体験全体を忘れる
- ・ 新しい出来事を覚え
ることができない
- ・ ヒントを与えられても
思い出せない
- ・ 時間や場所がわから
ない
- ・ もの忘れの自覚がない

認知症の症状について

認知症の症状には

中核症状と

行動・心理症状（周辺症状）があります

「中核症状」はほとんどの方にみられ、病気の進行とともに徐々に強くなります。

「行動・心理症状」はすべての方にみられるわけではなく環境や家族の接し方によって、軽くなったり強く現れることもあります。

周辺症状

環境の変化や心理的状况によって起こる症状

財布や物が盗まれたという

現実にはないものを見た、聞いたという

中核症状

脳細胞が壊れることによって直接起こる、中心となる症状

- **記憶障害**
最近の記憶や出来事、行動を忘れる
- **見当識障害**
けんとうしき
現在の日付、時間、場所、人物などがわからない
- **実行機能障害**
段取りや計画が立てられない
- **理解・判断力の障害**
ATMや改札のメカニズムがわからない
考えるスピードが遅くなる

納得がいけないことがあると大声を上げたり手をあげたりする

いらいらして落ち着かない、一人で落ち着いていられない

入浴や着替えなどの介護を嫌がる

気分が沈んで晴れ晴れしない

食べられないものでも口にする

何かを探したり、居心地が悪かったりなどの原因で歩き回る